

令和 6 年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 4 6 ） 学校名 豊田市立衣丘小学校

1 テーマ

本物の自然体験活動と人とのふれあい

～「みかんの栽培」「校庭の芝生化」を通して～

2 ねらい

自然が少ない街中で暮らす子どもたちに、自然と本物にふれあう体験をしてほしい、また人との交流を通してあたたかい心の醸成をしたいという強い願いがある。創立以来続けてきた学校のシンボル「みかん」の世話と収穫を軸に、豊田スタジアムの芝生の再利用で始まった校庭の一部の芝生化によって、季節を感じて自然とふれあうこと、そして、地域を中心とした多くの人々との交流をすすめることで、豊かな人間性を育むことをねらう。

3 活動内容

（1年）「野菜を育てよう」をテーマに、地域講師の力を借りて夏野菜やダイコンなどの栽培活動を行いながら、地域の方との交流を深めた。

（2年）学級園で季節ごとに旬の野菜を育て、観察をした。地域講師の方に夏野菜・冬野菜の世話や手入れの仕方を教えてもらった。また、学区探検に出かけ、地域のために働く人たちの思いや願いを知ることができた。

（3年）総合的な学習の時間のテーマを「生き物大好き！プロジェクト」とし、春と秋に自然体験活動を行った。学んだことを生かして、学校に生き物や植物でいっぱいになるように活動を展開した。

（4年）道慈小学校との交流において、道慈小学校区にある歴史的な建物の見学や、五平餅づくり、紙すき体験で和紙を製作するなど、小原地区に受け継がれている伝統に触れることができた。本校での交流会では、みかんの収穫をしたり、授業を一緒に受けたりして交流を深めた。

（5年）総合的な学習の時間のテーマを「みかんの魅力を伝えよう」とし、みかんについて調べた。調べたみかんの魅力を家族や友達に伝え、みかんを大切に作る心を養うことができた。

（6年）みかんの摘果や肥料やりなどの栽培活動の中で、縦割り班のリーダーとして班員をまとめた。異学年交流を通して、低学年に優しく声をかけたり、困っている子に寄り添ったりする姿が見られた。

（特別支援学級）様々な夏野菜やダイコンなどの栽培、収穫を行った。収穫後は、野菜を販売したり、お世話になった方へプレゼントをしたりして、人とのやりとりを学ぶことができた。また、買い物学習を地域の

店で行い、地域の方と触れ合うことができた。

(栽培委員会)「みかん祭り」の企画・運営を行った。また、年間を通して、みかんの摘果や寒冷紗かけ、「みかん新聞」の発行、芝生の草取りを行った。

4 成果と課題

(1) 成果について

みかん栽培は、衣丘の伝統的な活動として定着している。この活動を維持するために、本事業の支援を有効に活用することができた。ペア学年での縦割り班活動だけでなく、今年度より全校での縦割り班活動を行った。縦割り班ごとに摘果をしたり、自分たちのみかんの木の様子を観察したりした。全校児童で収穫を喜び合い、収穫まで支えてくれている多くの人たちに感謝の気持ちをもつことの大切さを知ることができた。

また、「自然」「食」「環境」「命」「人」とかかわる生活科や総合的な学習の時間、学校行事等において、各学年が工夫を凝らして活動を行った。「みかん祭り」では、みかんを教材化した授業を保護者に参観してもらい、みかんを収穫して食べるだけでなく、学習へも有効活用している様子を知っていただくことができた。

保護者アンケートの中で、「特色ある学校づくり推進事業を活用し、特色のある教育活動を行っているか。」という質問に対して、「とてもよい」…37%、「よい」…57%、合計94%の回答を得た。

今後も、全校の子どもたちで作物を作ることに重点を置き、縦割り班の活動を中心として、自らの「実り」を実感し、自然の恵みに感謝できる子どもの育成に努めていきたい。

(2) 課題について

今年度は異常な暑さのため、みかんの収穫量が激減した。自然のものなのでしかたがないが、栽培活動の難しさを実感した。さらに、みかんの木が老木となり、今年度だけで5本を移植した。苗木が不足しているため、購入する必要がある。苗木は、すぐに移植はできないので計画的に進めていきたい。

みかんの栽培について、観察以外に、もう少し子どもたちの手で手入れや世話をしていくことができればと感じる。芝生についても、全校が有効活用していけるようにしていきたい。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページでは、各学年や委員会活動の取組や様子を計16回紹介した。
- ・学校だよりで、全学年の取組を紹介した。
- ・みかん祭りや学習発表会など、特色ある学校づくり事業にかかわる公開授業を全学年で行った。
- ・これからも、保護者や地域に発信をしていきたい。